

5G時代の幕開け



5G事業推進室 室長
たぐち つとむ
太口 努

2020年3月、日本でも第5世代移動通信システム（5G）の商用サービスがスタートしました。移動通信システムは、アナログ方式の第1世代から、デジタル方式（第2世代）、IMT-2000（第3世代）、LTE（第4世代）、そして第5世代と、これまでおおむね10年に1度その世代を進化させてきました。その間、通信速度の飛躍的な高速化とネットワークの大容量化が図られ、人々の日常生活をより便利にし、また産業分野での生産性向上、付加価値創造などにも寄与してきました。5Gにおいてはさらなる高速化・大容量化が図られ、高精細な映像伝送やVR（Virtual Reality）、MR（Mixed Reality）などがこれまで以上にスムーズに利用可能となります。さらに、5Gの特長には低遅延、多数同時接続もあり、これらにより素早いアクションが要求されるeスポーツをはじめとするゲーム分野、さまざまな多数のセンサデバイスを利用するIoT分野などでの活用も期待されています。

5Gの導入は、その技術的性能の向上による移動通信システム基盤の進化であるとともに、それに加えて新たなビジネス創出に繋がる事業基盤の進化でもあり、ひいては社会的課題の解決や地方創生に資する社会基盤の進化と捉えられます。ドコモは、これらの進化の実現に向け、2018年2月より推し進めているドコモ5Gオープンパートナープログラムを通して、さまざまな業種の企業、日本各地の自治体、また、大学などの研究機関などとともにサービス・ソリューションの創出を行ってきました。その一部については今年1月に東京で開催したDOCOMO Open House 2020でも展示し、その成果は多くの来場者に評価されました。

このように広範にわたるサービスや産業が創出される5G時代では、これまで使用されてきたスマートフォンやタブレットに加え、多様なデバイスも積極的な活用が想定されます。例えば、VR映像サービスを、5Gスマートフォンを経由したVR用ヘッドマウントディスプレイ（HMD：Head Mounted Display）や将来的には5G通信可能なVR用HMDを利用することで、モバイル環境において没入感や直感に訴えるような体感を得ることが可能となります。ほかにも、高精細カメラ、ウェアラブルデバイス、センサデバイスなどとの連携により、スマートフォンなどのUI/UXの制約から解放され、新たなユーザー体験が提供される時代となっていくでしょう。また、デバイスを提供するベンダにとっても5Gを活用したエコシステムへの参入が容易になり、ビジネスチャンスが広がります。

今後ますます多種多様となるお客様のニーズに対応していくためには、その時代の最先端のICTによって付加価値を産み出し、それらをどう活用していくかが重要となります。次の10年を支える重要な基盤となる5Gを有効に活用し、お客様にその価値を体感していただける未来のデザインが、今の時代に期待されています。